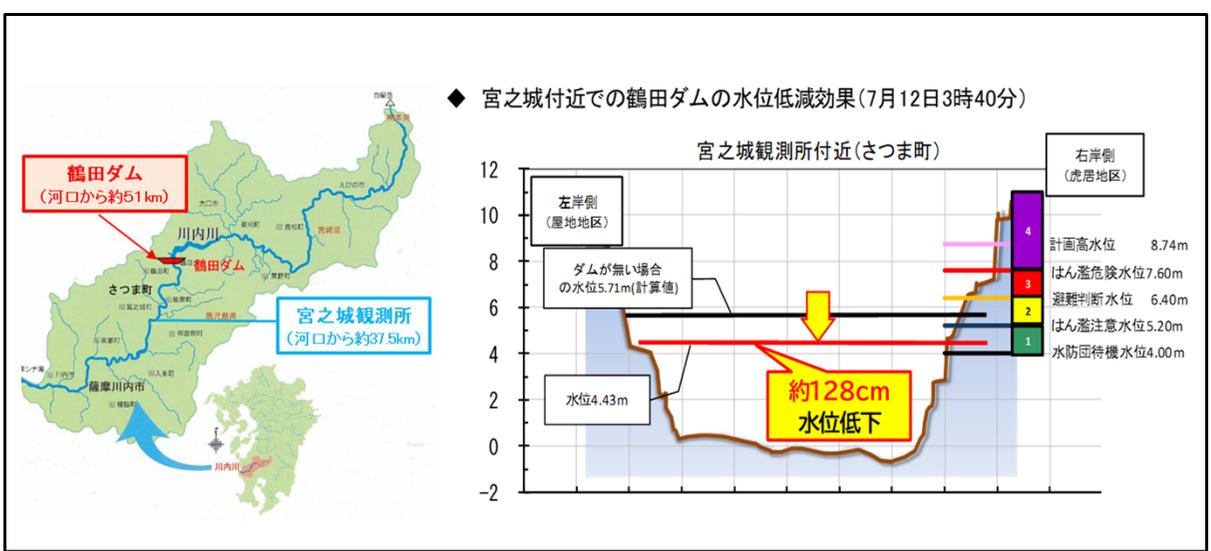
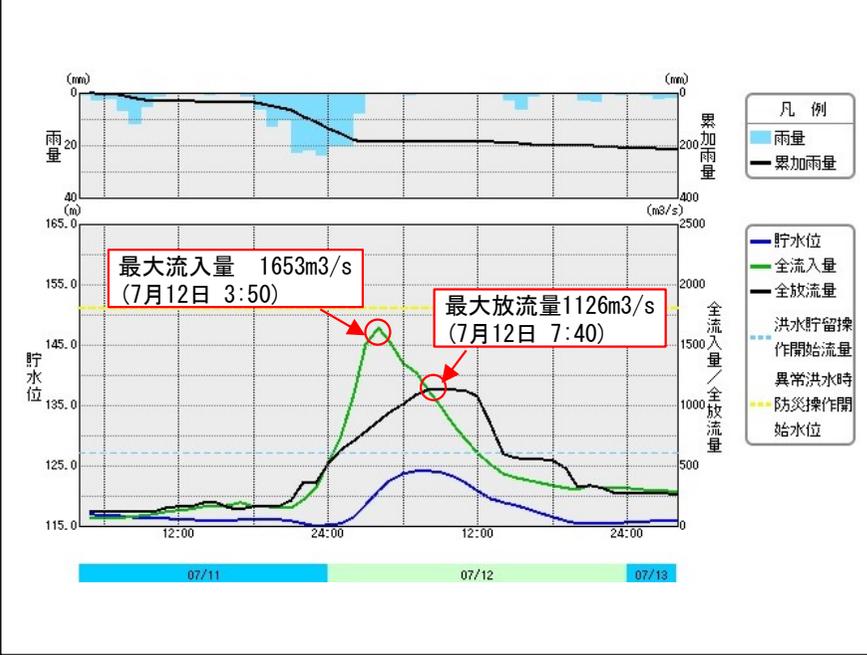
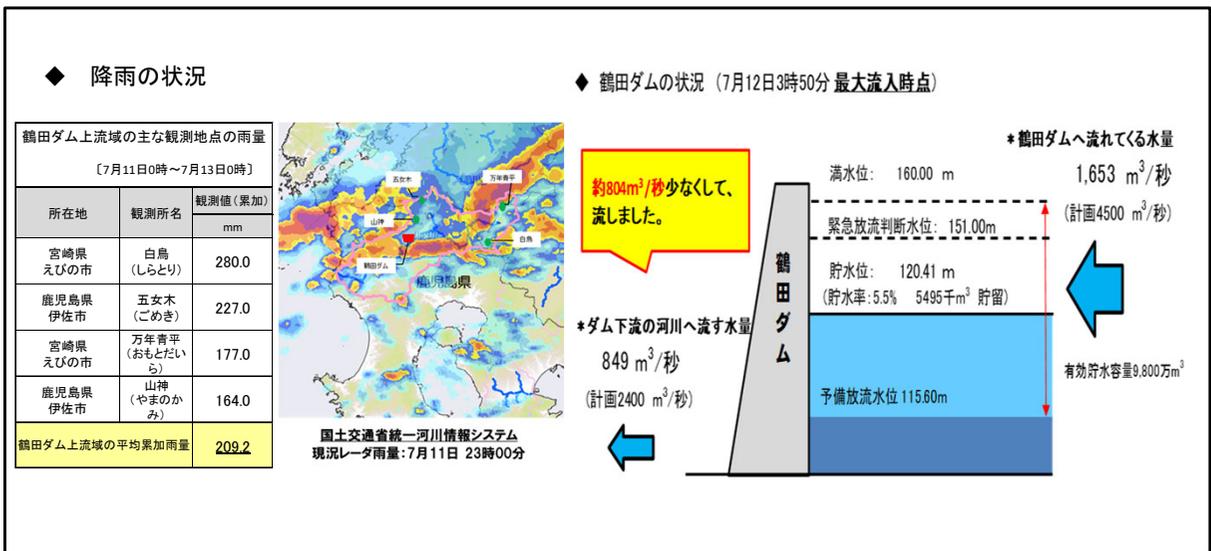
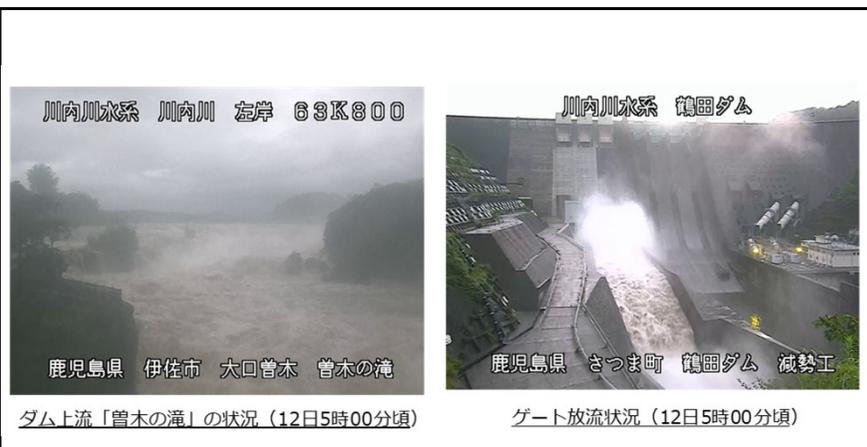


# ○. 防災操作の効果 鶴田ダム(川内川水系川内川)

- 梅雨前線に伴う豪雨により、鶴田ダム上流域において、7月11日～7月12日までの総雨量は209mmを観測しました。
- 鶴田ダムでは、12日0時30分より、ダムへ流れ込む水量の一部を貯める「洪水調節」を行いました。
- ピーク流入量は約1650m<sup>3</sup>/sを記録しその際ダムにより約800m<sup>3</sup>/sを貯留して下流河川の増水を緩和しました。
- 鶴田ダムが無かった場合の宮之城水位観測所の水位は、はん濫注意水位(5.20m)を上回る5.71mに達していたと想定されダムの洪水調節によって約1.28m水位を低下させたと推定されます。



※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります